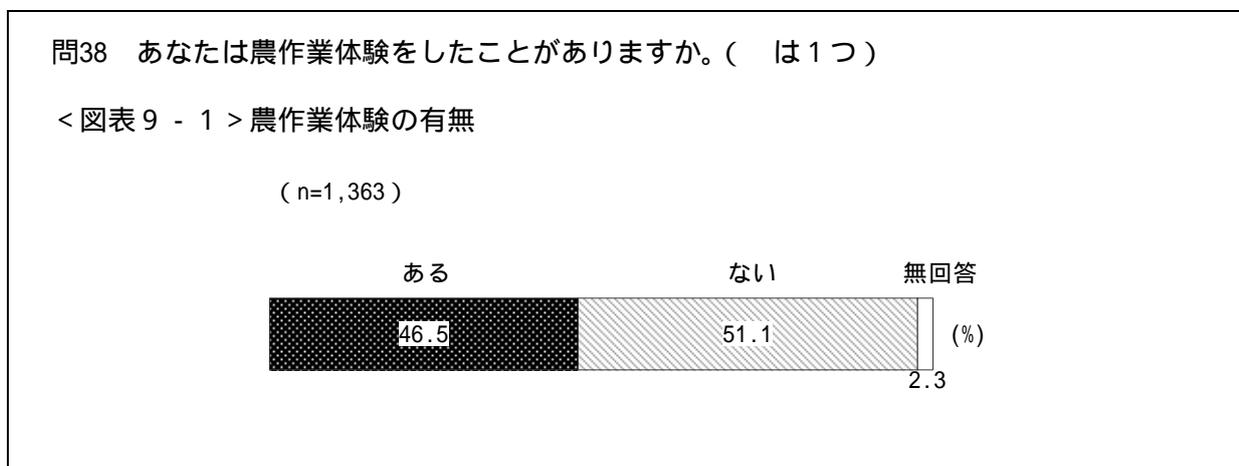


9 都市農業について

（1）農作業体験の有無

「ある」が4割台半ば

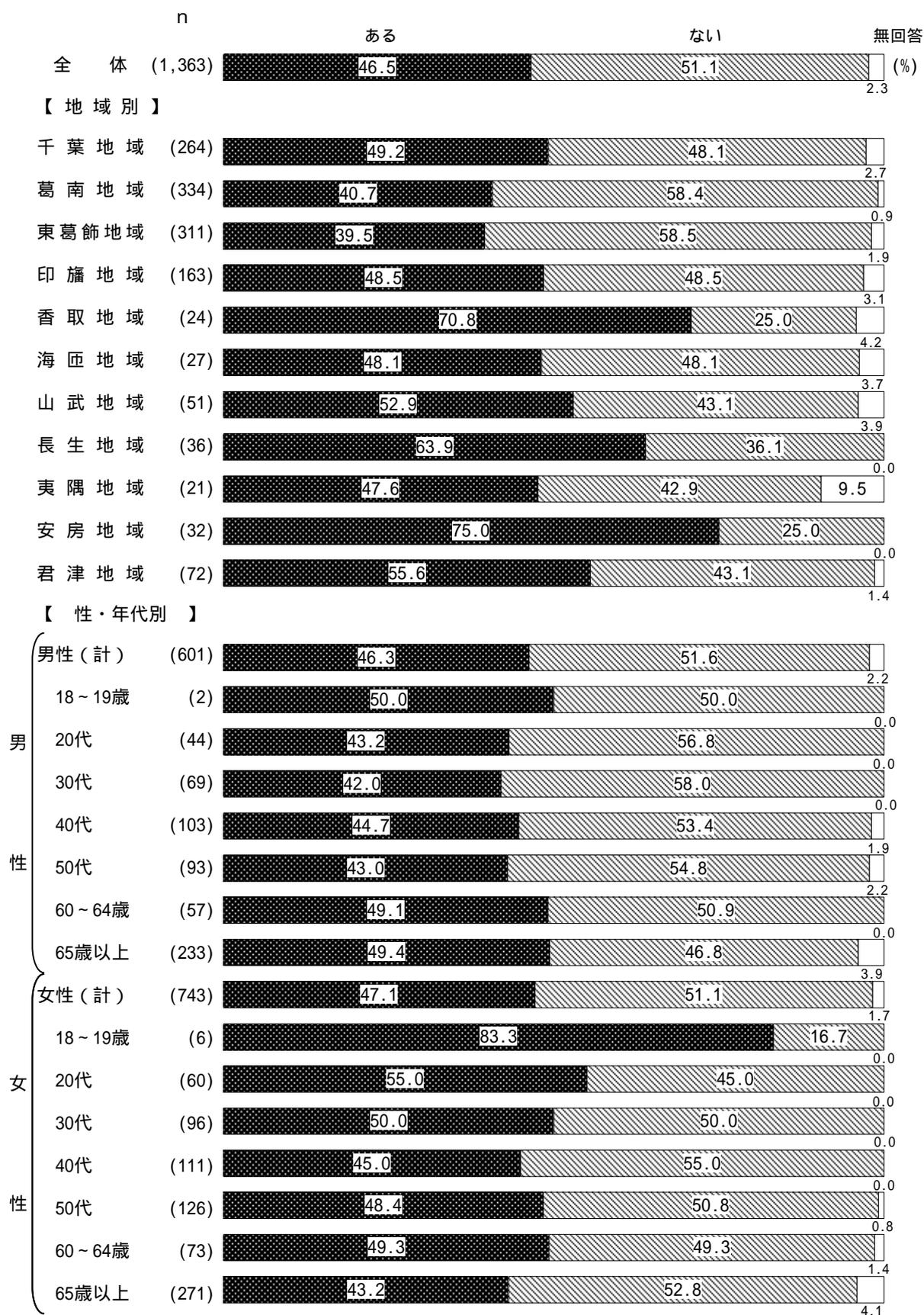


農作業体験の有無を聞いたところ、「ある」(46.5%)が4割台半ば、「ない」(51.1%)が5割を超えている。(図表9 - 1)

【地域別】

地域別にみると、「ある」は、“安房地域”(75.0%)で7割台半ば、“香取地域”(70.8%)で7割、“長生地域”(63.9%)で6割台半ばと高くなっている。(図表9 - 2)

< 図表 9 - 2 > 農作業体験の有無 / 地域別、性・年代別



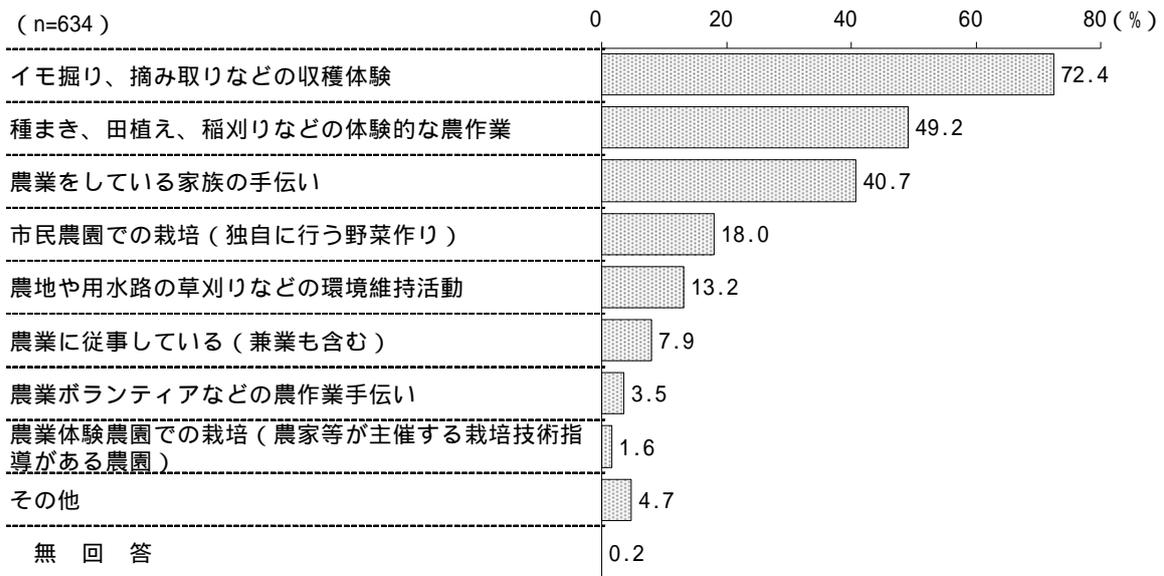
（ 2 ） 農作業体験の内容

「イモ掘り、摘み取りなどの収穫体験」が 7 割を超えており最も高い

（問38で「ある」とお答えの方に）

問39 あなたはどのような形の農作業体験をしたことがありますか。（はいいくつでも）

< 図表 9 - 3 > 農作業体験の内容（複数回答）



農作業体験のある634人に、体験した内容を聞いたところ、「イモ掘り、摘み取りなどの収穫体験」（72.4%）が 7 割を超えており最も高く、以下、「種まき、田植え、稲刈りなどの体験的な農作業」（49.2%）、「農業をしている家族の手伝い」（40.7%）が続く。（図表 9 - 3）

【地域別】

地域別にみると、「種まき、田植え、稲刈りなどの体験的な農作業」は、“安房地域”（70.8%）で 7 割、“海匝地域”（69.2%）で約 7 割、“君津地域”（60.0%）で 6 割と高くなっている。

「農業をしている家族の手伝い」は、“安房地域”（62.5%）で 6 割を超え、“長生地域”（60.9%）、“夷隅地域”（60.0%）で共に 6 割、“山武地域”（55.6%）で 5 割台半ばと高くなっている。

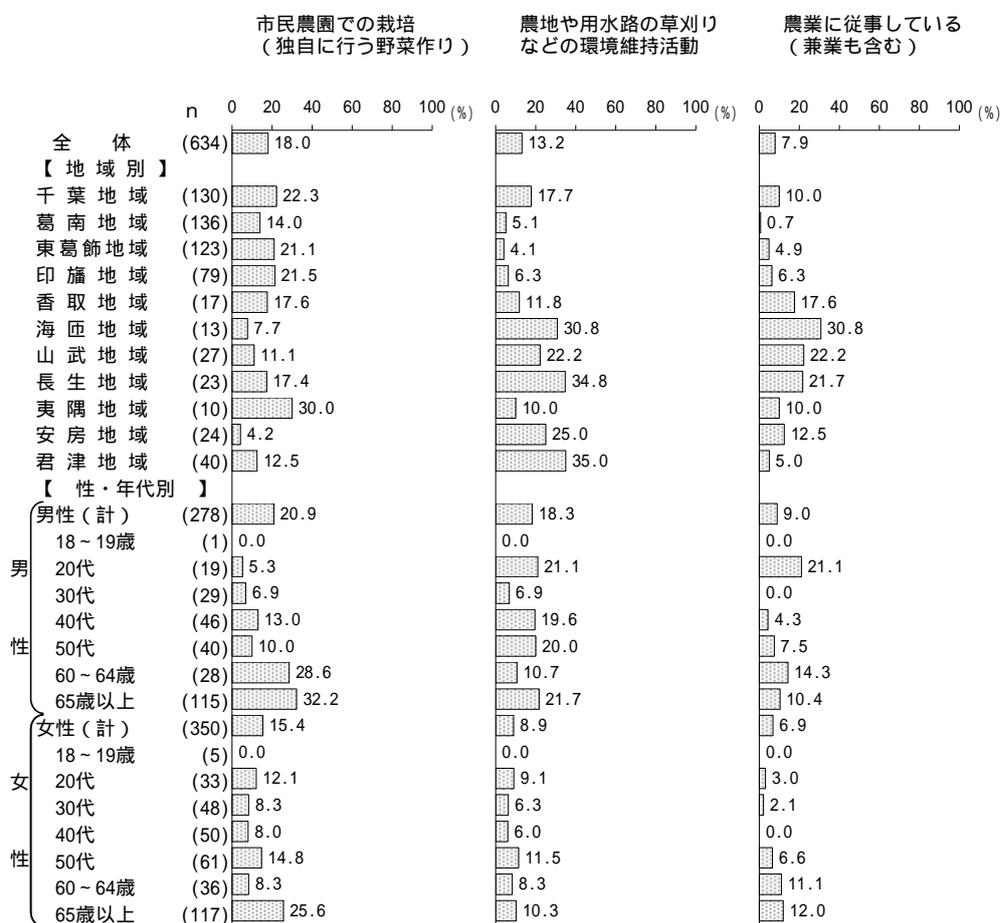
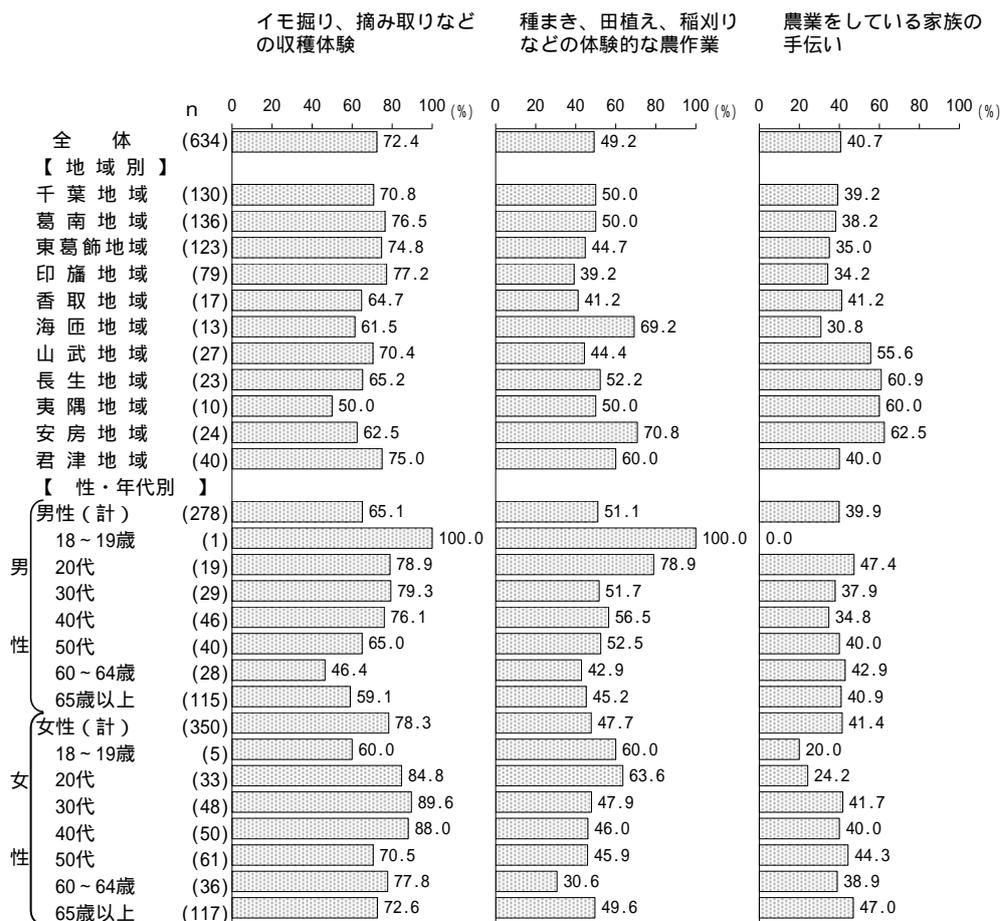
「農地や用水路の草刈りなどの環境維持活動」は、“君津地域”（35.0%）、“長生地域”（34.8%）で 3 割台半ばと、高くなっている。（図表 9 - 4）

【性別】

性・年代別にみると、「イモ掘り、摘み取りなどの収穫体験」は、女性の30代（89.6%）、女性の40代（88.0%）で共に約 9 割と高くなっている。

「市民農園での栽培（独自に行う野菜作り）」は、男性の65歳以上（32.2%）で 3 割を超え、女性の65歳以上（25.6%）で 2 割台半ばと高くなっている。（図表 9 - 4）

< 図表 9 - 4 > 農作業体験の内容 (複数回答) / 地域別、性・年代別



（ 3 ）千葉県に農地を残したいと思うか

「(残したいと)思う」が8割を超えている

問40 農地は、農業生産の最も基礎的な資源であり、良好な状態でその確保を図ることが重要ですが、近年、転用などにより農地が減少しています。また、地域によっては担い手不足がより顕在化し、耕作されない農地が増加し、耕作放棄地のさらなる増加が懸念される状況にあります。

あなたは、千葉県に農地を残したいと思いますか。(は1つ)

< 図表 9 - 5 > 千葉県に農地を残したいと思うか



千葉県に農地を残したいと思うかを聞いたところ、「思う」(82.7%)の回答が8割を超えている。

(図表 9 - 5)

【地域別】

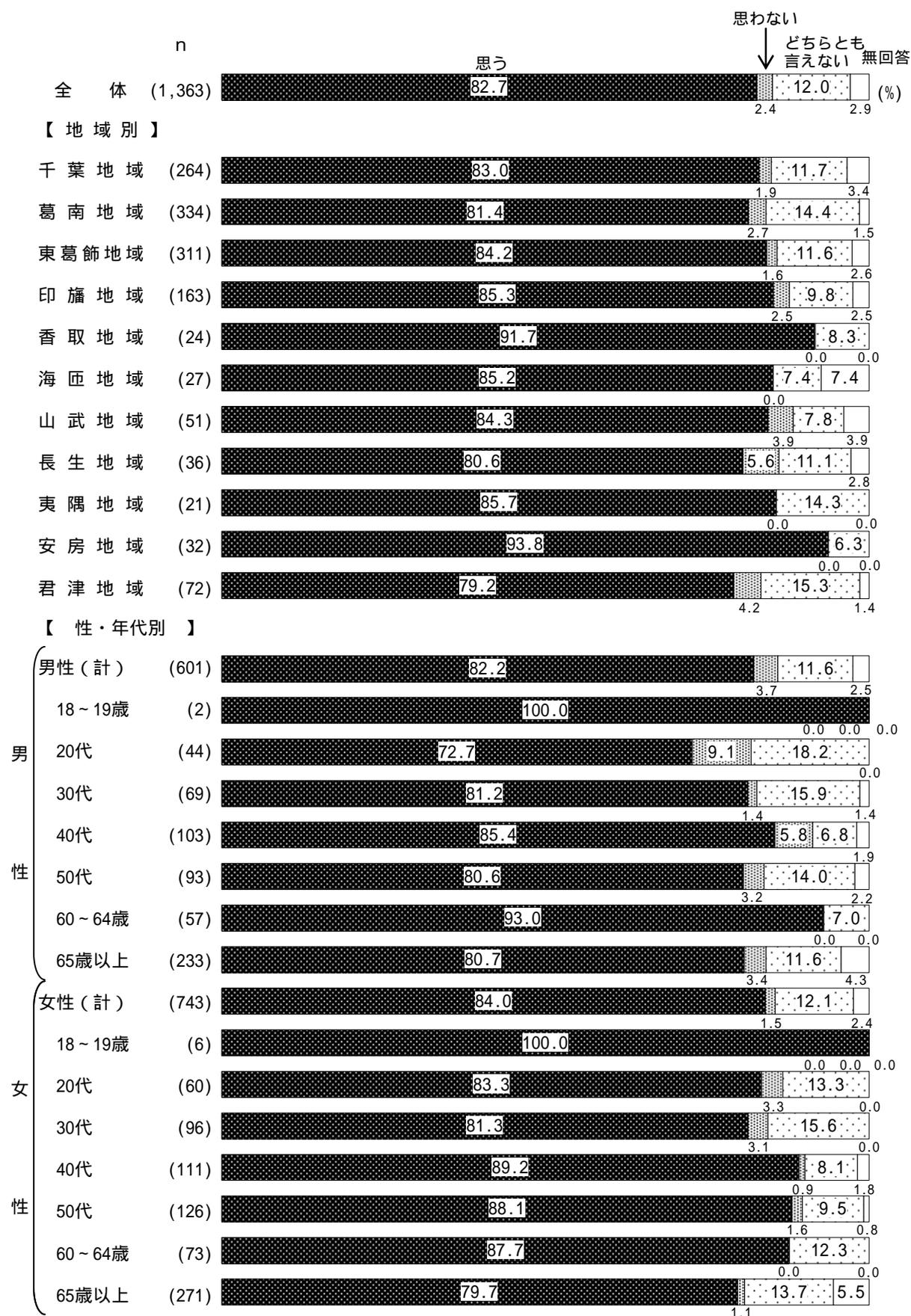
地域別にみると、「思う」は、“安房地域”(93.8%)で9割台半ば、“香取地域”(91.7%)で9割を超えて高くなっている。(図表 9 - 6)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「思う」の回答が、男性の60～64歳(93.0%)で9割台半ばと高くなっている。

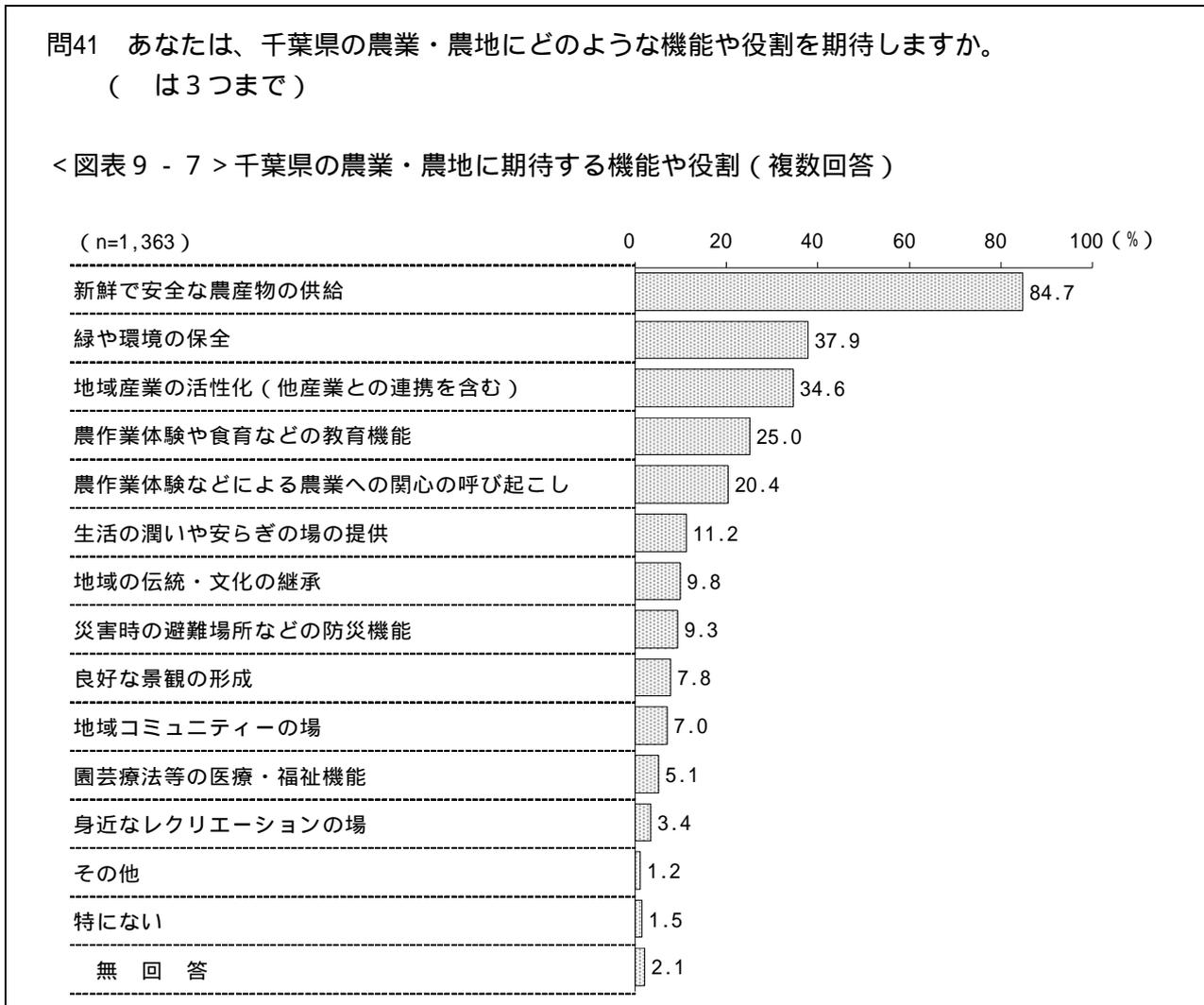
(図表 9 - 6)

< 図表 9 - 6 > 千葉県に農地を残したいと思うか / 地域別、性・年代別



（４）千葉県農業・農地に期待する機能や役割

「新鮮で安全な農産物の供給」が 8 割台半ばと最も高い



千葉県の農業・農地にどのような機能や役割を期待するか、3 つまで選んでもらったところ、「新鮮で安全な農産物の供給」（84.7%）が 8 割台半ばと最も高く、以下、「緑や環境の保全」（37.9%）、「地域産業の活性化（他産業との連携を含む）」（34.6%）、「農作業体験や食育などの教育機能」（25.0%）が続く。（図表 9 - 7）

【地域別】

地域別にみると、「新鮮で安全な農産物の供給」は、“君津地域”（93.1%）で 9 割台半ばと高くなっている。

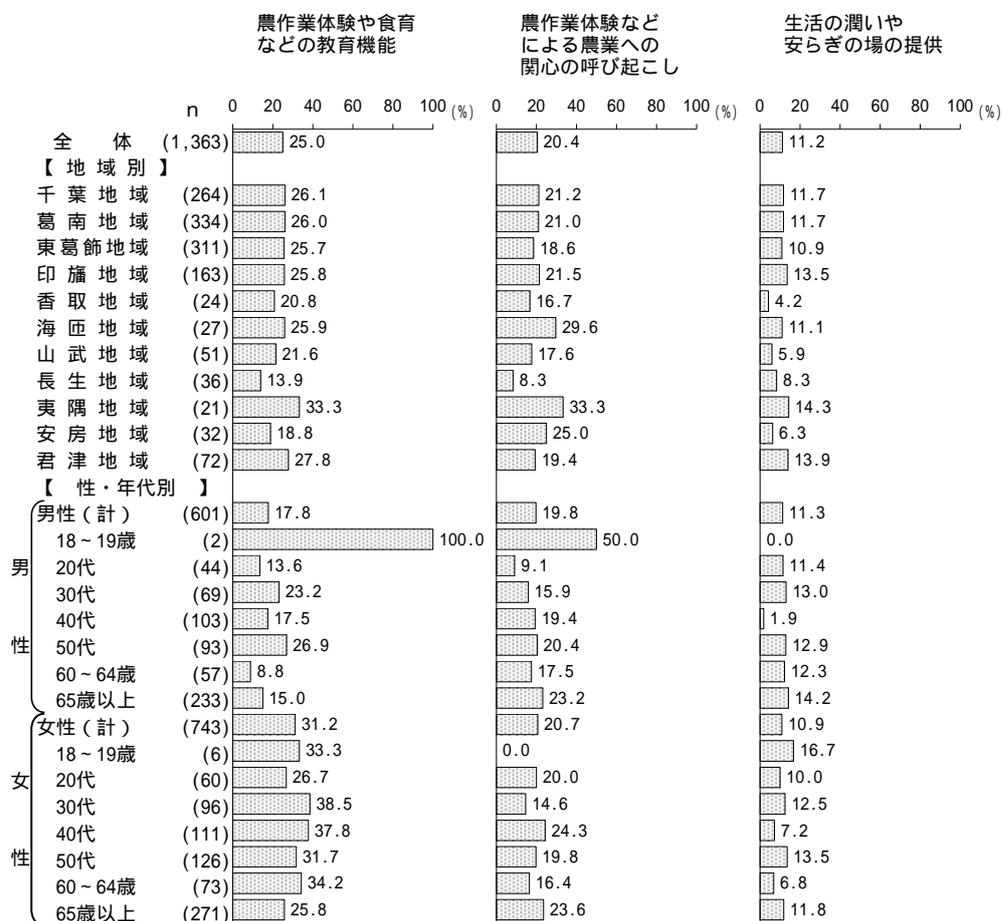
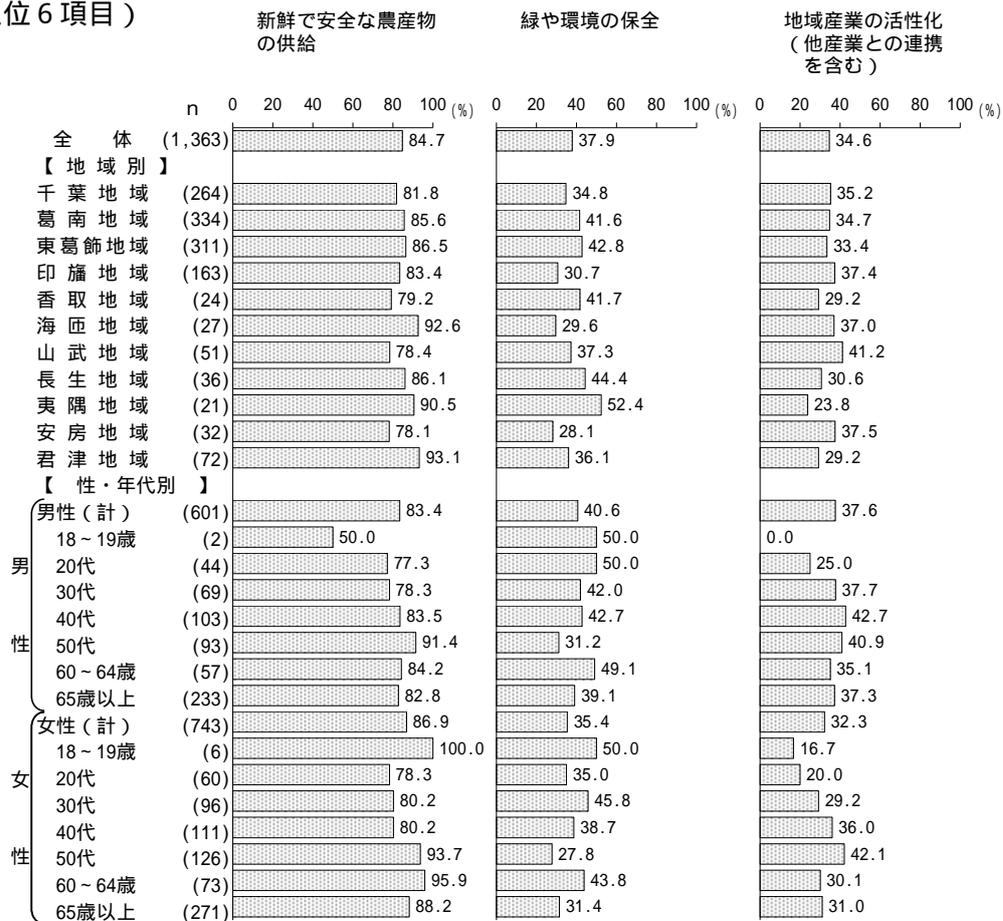
「緑や環境の保全」は、“夷隅地域”（52.4%）で 5 割を超えて高くなっている。（図表 9 - 8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「新鮮で安全な農産物の供給」は、女性の 50代（93.7%）女性 60～64歳（95.9%）で共に 9 割台半ばと高くなっている。

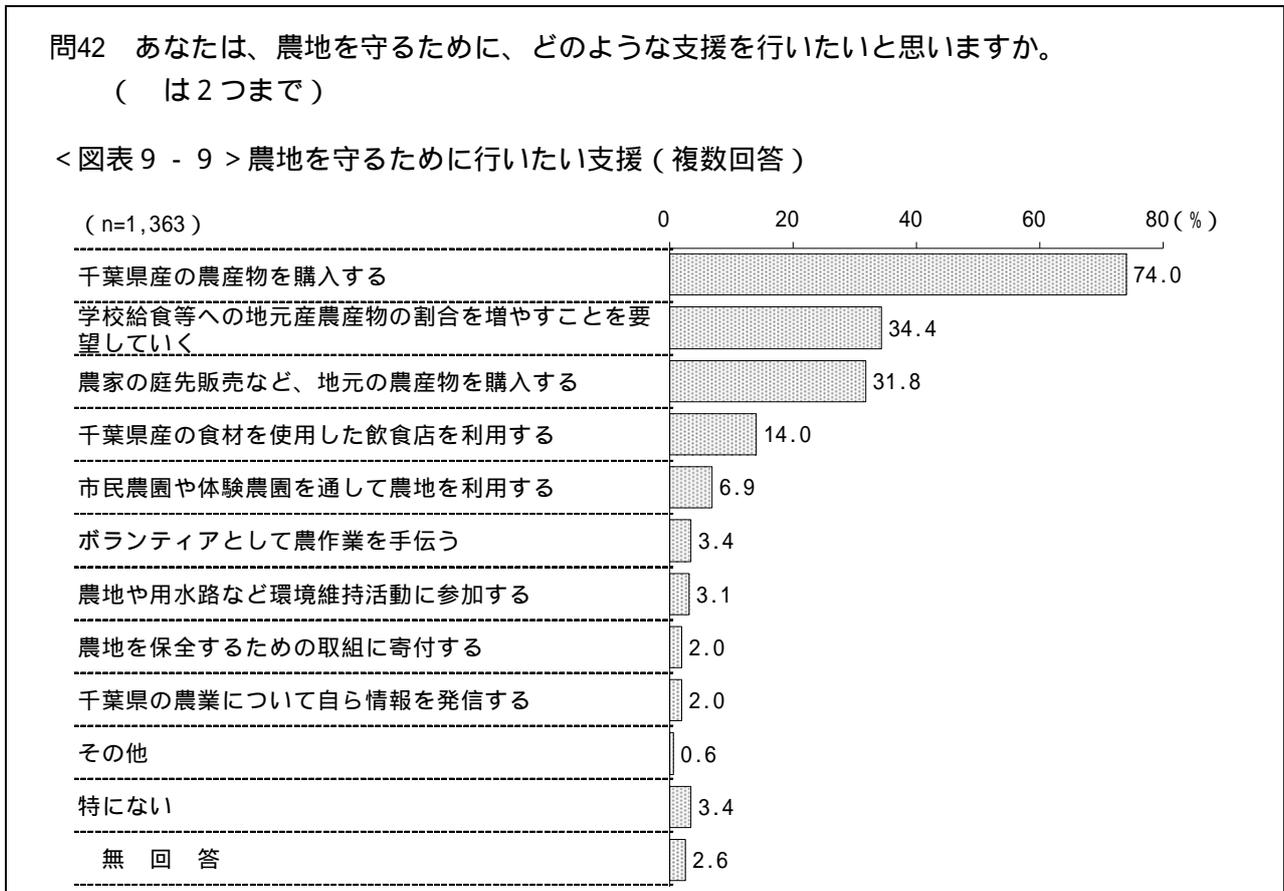
「農作業体験や食育などの教育機能」は、女性の 30代（38.5%）女性 40代（37.8%）で共に約 4 割と高くなっている。（図表 9 - 8）

< 図表 9 - 8 > 千葉県の農業・農地に期待する機能や役割 (複数回答) / 地域別、性・年代別 (上位 6 項目)



（ 5 ）農地を守るために行いたい支援

「千葉県産の農産物を購入する」が7割台半ばと最も高い



農地を守るためにどのような支援を行いたいかを、2つまで選んでもらったところ、「千葉県産の農産物を購入する」（74.0%）が7割台半ばと最も高く、以下、「学校給食等への地元産農産物の割合を増やすことを要望していく」（34.4%）、「農家の庭先販売など、地元の農産物を購入する」（31.8%）が続く。（図表 9 - 9）

【地域別】

地域別にみると、「千葉県産の農産物を購入する」は、“夷隅地域”（81.0%）で8割を超えて高くなっている。

「学校給食等への地元産農産物の割合を増やすことを要望していく」は、“葛南地域”（41.0%）で4割を超え、“安房地域”（40.6%）で4割と高くなっている。

「農家の庭先販売など、地元の農産物を購入する」は、“安房地域”（46.9%）で4割台半ばと高くなっている。（図表 9 - 10）

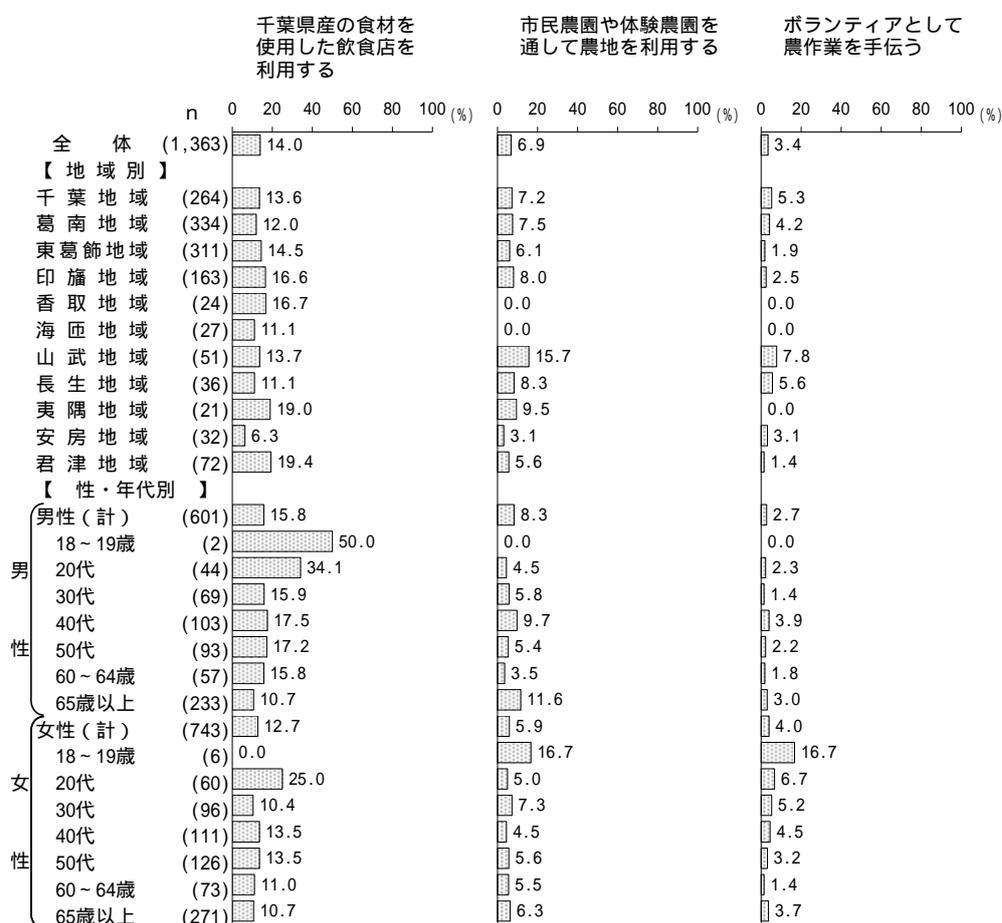
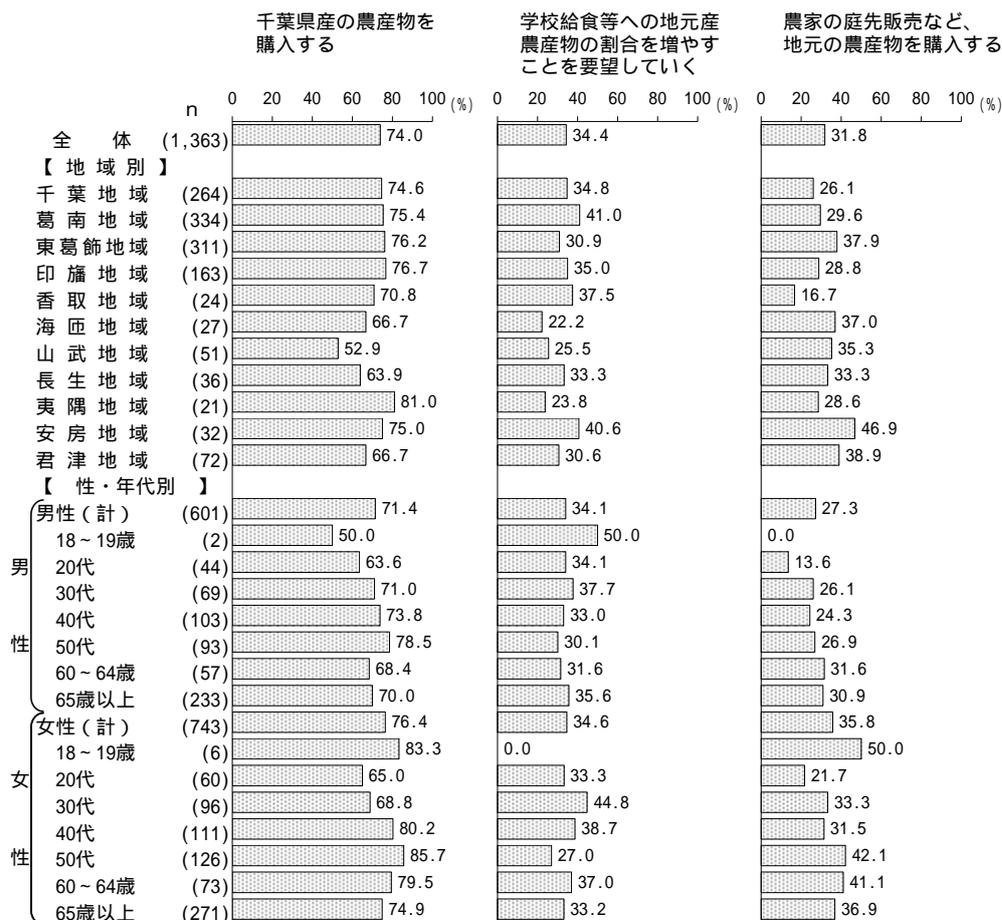
【性・年代別】

性・年代別にみると、「千葉県産の農産物を購入する」は、女性の50代（85.7%）で8割台半ばと高くなっている。

「学校給食等への地元産農産物の割合を増やすことを要望していく」は、女性の30代（44.8%）で4割台半ばと高くなっている。

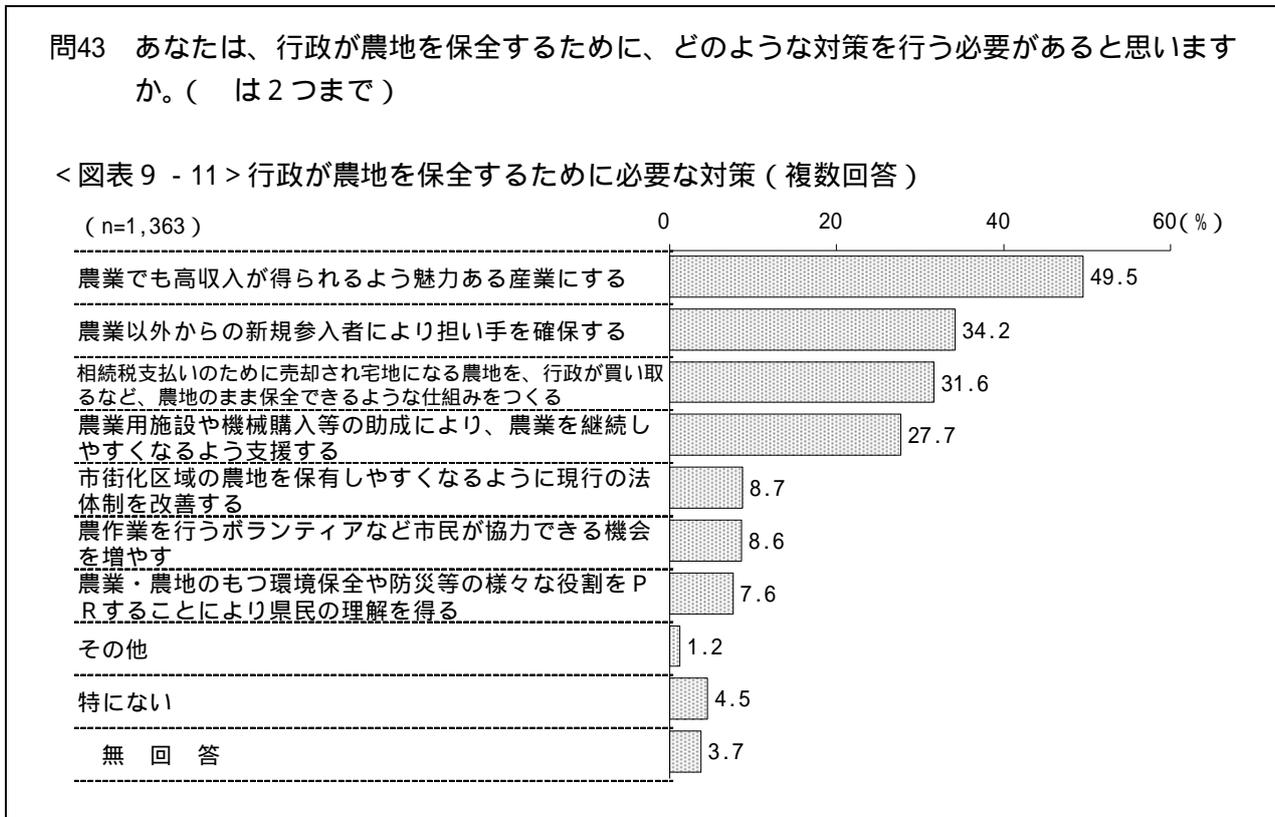
「千葉県産の食材を使用した飲食店を利用する」は、男性の20代（34.1%）で3割台半ば、女性の20代（25.0%）で2割台半ばと高くなっている。（図表 9 - 10）

< 図表 9 - 10 > 農地を守るためにやりたい支援 (複数回答) / 地域別、性・年代別 (上位 6 項目)



（ 6 ） 行政が農地を保全するために必要な対策

「農業でも高収入が得られるよう魅力ある産業にする」が約 5 割と最も高い



行政が農地を保全するために、どのような対策を行う必要があるかについて、2 つまで選んでもらったところ、「農業でも高収入が得られるよう魅力ある産業にする」（49.5%）が約 5 割と最も高く、以下、「農業以外からの新規参入者により担い手を確保する」（34.2%）、「相続税支払いのために売却され宅地になる農地を、行政が買い取るなど、農地のまま保全できるような仕組みをつくる」（31.6%）、「農業用施設や機械購入等の助成により、農業を継続しやすくなるよう支援する」（27.7%）と続いている。（図表 9 - 11）

【地域別】

地域別にみると、「農業でも高収入が得られるよう魅力ある産業にする」は、「夷隅地域」（66.7%）で 6 割台半ば、「安房地域」（62.5%）で 6 割を超えており、他の地域に比べて高くなっている。

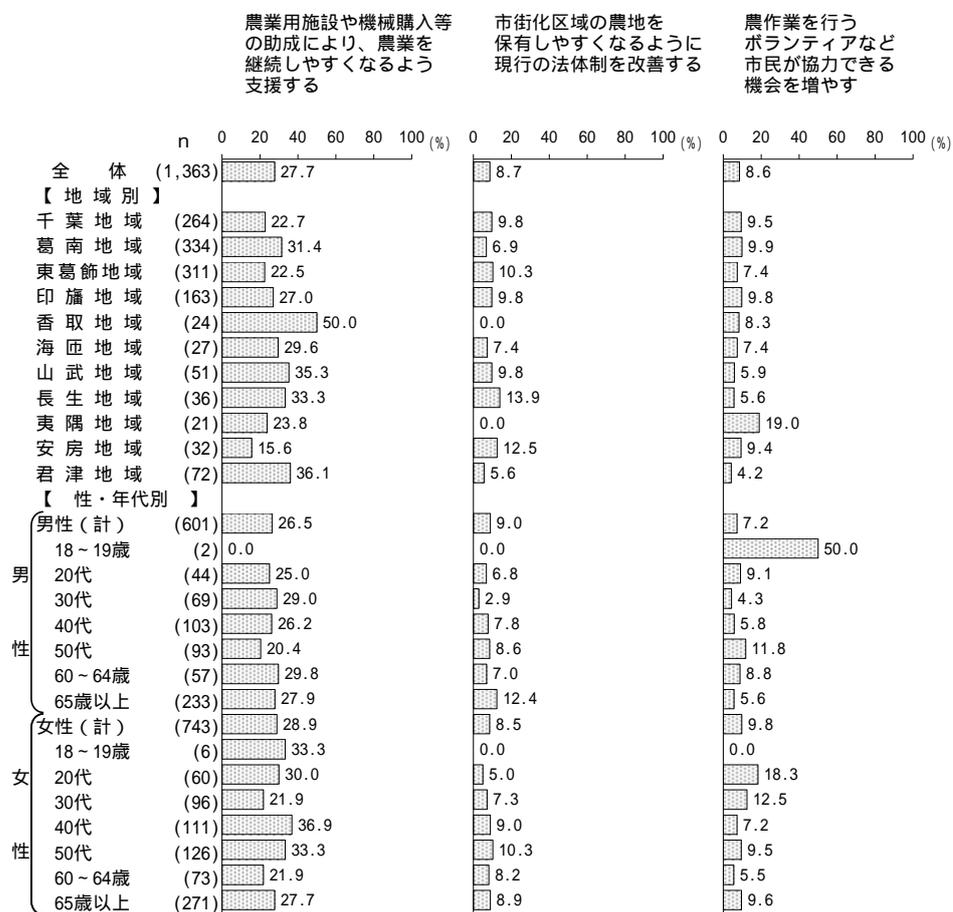
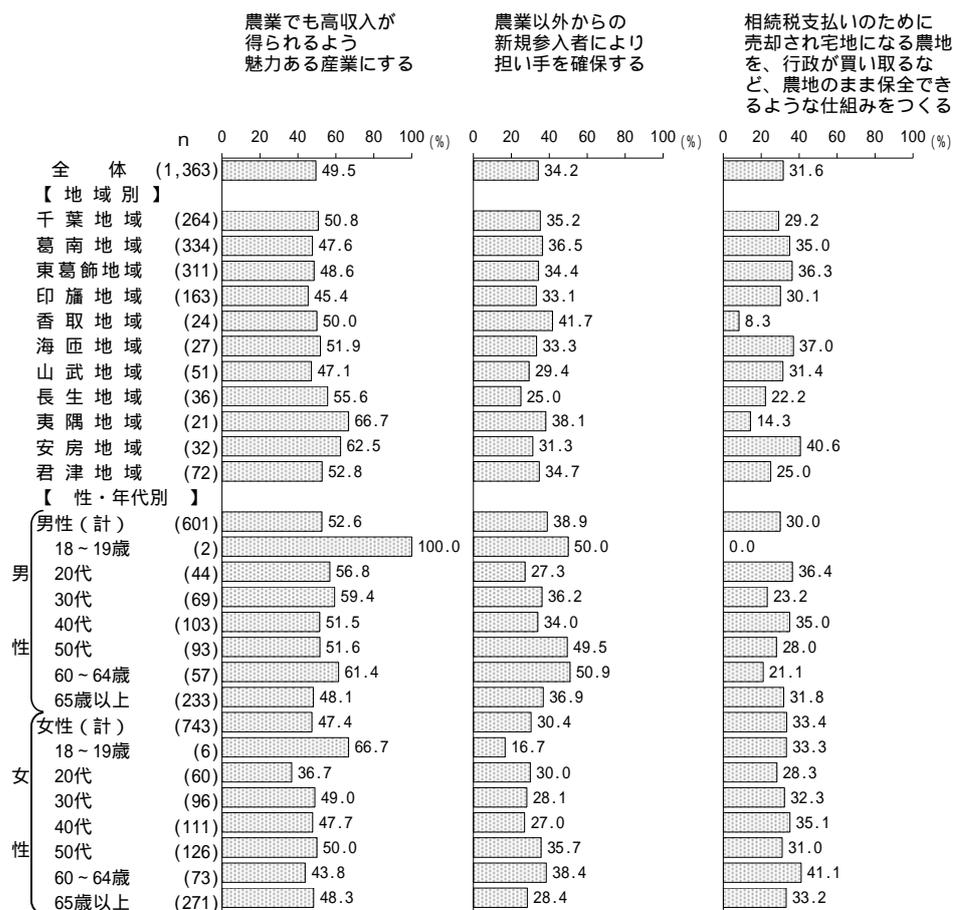
「相続税支払いのために売却され宅地になる農地を、行政が買い取るなど、農地のまま保全できるような仕組みをつくる」は、「安房地域」（40.6%）で 4 割、「海匠地域」（37.0%）で約 4 割、「東葛飾地域」（36.3%）、「葛南地域」（35.0%）で 3 割台半ばと、他の地域に比べて高くなっている。

（図表 9 - 12）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「農業以外からの新規参入者により担い手を確保する」は、男性の 50 代（49.5%）、男性の 60～64 歳（50.9%）で 5 割と、他の年代に比べて高くなっている。（図表 9 - 12）

< 図表 9 - 12 > 行政が農地を保全するために必要な対策 (複数回答) / 地域別、性・年代別



このほかに、「都市農業について」やここまでの質問（問38～問43）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、118 人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

「都市農業について」の自由回答（抜粋）

農業体験や農業を少しでも身近に感じることが必要。引き続き学校などでも取り入れていってほしいと思います。（女性、20 代、千葉地域）

学校給食で、県内産の食材を使うべきだと思う。（女性、30 代、安房地域）

周りはどんどん開発されていますが、時々田畑を見つけるとほっとします。身近に子供のころから農業体験することは「食育」だけではなく、情操教育にもなるのではと感じます。

（女性、50 代、葛南地域）

農業 = やりがいのある仕事 = しっかり休みが取れる仕組み（お金もしっかり稼げることも大切）体制作りを強化すると良いと思います。メイドインジャパンは世界でも通用するように日本国内の消費者も国内産、地元産の重要性に気づいています。食べる側としての意識が高まっているので、今度は作る側の意識が高まれば良いと思います（千葉県なら県が運営するなど、千葉県団体の農業を行う施設を設け、人を雇うなど）。（女性、30 代、千葉地域）

農業に対し興味関心を示している人は多くいると思います。ただし多くの方が農業で生計を立てていくことへの不安と資金について悩まれていると思います。新規参入者の方には、新しいアイデアや発想をもっている方も多くいると思います。新しい方が農業に入りやすいような環境の整備を求め期待します。（男性、40 代、葛南地域）

農業を保護・助成する発想ではなく、競争力強化・自立化を支援して、まずは一人立ちさせること。販売やPR（学校などでの優先した使用など）はまとめて自治体が支援していくことが望ましいと思います。（男性、40 代、東葛飾地域）

農家からの情報発信（販売力やブランド戦略）が構築できるよう、行政のサポートがあると良いと思う。（男性、40 代、千葉地域）

都内に千葉県の商品をアピールしてほしい（地方都市や海外への活動はチバTVで見ました）。

（男性、40 代、山武地域）

農家の方が農地を手放さなくても良いように手助けしてほしい、農家を守ってあげてほしい。

（女性、50 代、東葛飾地域）

休耕地が多くなっている。一般家庭への開放をして、畑の再利用をするべきではないか。自宅農業の推進を...。（男性、50 代、東葛飾地域）